様式第4号（第9条関係）

令和 6 年 10 月 23 日

小野市議会議長　髙坂純子 様

派遣議員　平田 真実

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 派 遣 日

令和 6 年 10 月 17 日（木）～令和 6 年 10 月 18 日(金)

2 派遣議員

掘井ひさ代議員、山本麻貴子議員、宮脇健一議員、村本洋子議員、
喜始真吾議員、河島三奈議員、前田光教議員、小林千津子議員、平田真実

3 派 遣 先

第86回 全国都市問題会議 （会場：アクリエひめじ）
健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～

4 内　　容

◊議題解説
健康づくりとまちづくり
～市民の一生に寄り添う都市政策～

◊基調講演
生命を捉えなおす―動的平衡の視点から―
生物学者/青山学院大学教授 福岡伸一氏

◊主報告

市民「LIFE」（命・くらし・一生）を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり

兵庫県姫路市長　清元秀泰氏

◊一般報告

・生き物から学ぶ健康なまちづくり

筑波大学システム情報系教授　谷口守氏

・都市そのものを健康にするまちづくり

～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまちへ～

千葉県流山市長　井崎義治氏

・IT/AI の健康分野への適用例

～姫路市の検診データ解析と歌唱による誤嚥予防～

兵庫県立大学副学長　畑豊氏

◊パネルディスカッション

・健康づくりによるまちづくり　パネルディスカッションにあたって

中央大学法学部教授　宮本太郎氏

・心理社会面から見た、子どもの健康

高岡病院児童精神科医　三木崇弘氏

・食を切り口とした１人１人の望む暮らしを支援する栄養パトロール事業

NPO 法人日本栄養パトネット理事長　奥村圭子氏

・未来型「ゆい」で紡ぐ健康高原都市・茅野の構築

長野県茅野市長　今井敦氏

・「未来予防対策先進都市」をめざした「官民連携」「市民共創」のまちづくり

大阪府泉大津市長　南出賢一氏

5 所　　感

基調講演の福岡教授からは「動的平衡」、また、「動的平衡論」についてご講演をいただきました。現代人の多くが考える、各臓器が組み合わさって生命が維持されているという「機械論的生命観」が本当に正しい生命の見方なのかという疑問から研究を重ね、「動的平衡」という生命体の特性に辿り着くまでのお話、その動的平衡という視点から得られる気づきを、まちづくり等の視点に活かすことはできないかというご提言でした。

私たちの消化管の細胞はなんと2～3日で生まれ変わるそうで、便は食べた物が捨てられているのはなく、自分の身体の細胞が捨てられていると言えるとのことです。食べた分子が身体を構成する分子と絶え間なく交換されつづけているため、身体は個体ではなく流体であるというお話を大変興味深く聞きました。動的平衡の、「創ることよりも壊すことを優先している」「生命現象ではあらゆるものが壊されることを予定されて創られている」「変わらないために変わり続ける分解と合成の絶えまない均衡」などの視点が、まちづくりにおいて、壊れる前に手を加えることの大切さを改めて気づかされるようでした。

姫路市長からは、姫路市の健康づくりに資する取組みをご紹介いただきました。抗生物質を不必要に使わない薬剤耐性（AMR）対策や子宮がん検診未受診の方への自己採取 HPV 検査キットの送付など、市民による主体的な介護予防を促進する取組みや、居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成するウォーカブルなまちづくり、マイナンバーカードやデジタル技術を活用した健康づくりなど、市民の健康づくりを促進するための取組みがなされています。こどもの未来健康支援センター「みらいえ」では、「相談」「交流」「学びあう」をコンセプトに、思春期の若者や妊産婦、子育て中の保護者やその家族などのさまざまなニーズに応じた専門的な相談に対応しておられ、社会人を対象としてプレコンセプションケアセミナーも今年度から実施しておられるとのことで、詳しく調べてみたいと思います。

谷口教授の専門分野は都市計画や交通計画だそうですが、交通行動データ観察から、人がどんどん歩かなくなってきていることに強い危惧を感じられ、「健康まちづくり」に取り組まれるようになったとのことです。生命体を支えるのは体中に張り巡らされた血液と血管のネットワークですが、都市の交通ネットワークについては各市町村がそれぞれの行政区域の中だけを見て最適な都市計画や交通計画を作成しているため、各市町村が作成した都市マスタープ

ランの将来構想図を張り合わせると各所で不整合を起こしてしまっていることがあぶり出せるというお話が特に印象的でした。

流山市で多くの転入者が流山市に居を構えることになった区画整理事業は、「緑」が鍵になっているとのことでした。緑を流山市の資源と捉え、このまま区画整理事業等でその資源である緑を失っていくことの危機感を基軸に、子育て政策にも注力した結果、緑豊かな安らぎを感じるまちとなり、市民にとってストレスの少ないリフレッシュできる健康都市が実現したようです。

畑副学長からは、2008年～2012年の姫路市の健康診断データを用いた解析についてご説明いただきました。地域や市ごとに、総合的な健康状態を判断するために、ファジィ論理に基づいた健診結果の評価手法のお話から、ファジィ値が都市間や地域間の特性の違いを分析することに有効であるとのお話と、歌唱による誤嚥防止と AI による嚥下解析のお話、生殖医療の状況等についてのお話でした。市町は、子どもを産み、育てやすい環境づくりの一つとして生殖医療への理解や支援を行うことの重要性についてもお話いただきました。

パネルディスカッションでは、健康づくりがこれまでの領域を大きく超えて、まちづくりそのものと重なってきていることを痛感しました。また、持続可能な取組みにデジタルの活用が不可欠であることを今一度、一人一人が重く受け止める必要があると考えます。宮本教授からは、健康づくりに力を入れている自治体は「移動保健室」や「オンライン保健室」など、〇〇保健室の取組みが目立つと仰っていたことも印象的でした。泉大津市が新型コロナウイルス感染症対策のワクチン接種による副反応に苦しんでおられる方々をしっかりサポートしておられることは有名ですが、さまざまな健康情報や健康づくりの中から正しい情報や自分に合った取組みを市民が取捨選択できるため、ヘルリテラシーを高める必要性と学びの場の充実についての取組みが参考になりました。

全国都市問題会議に参加して、元気な人口が増えることこそが持続可能な自治体の基礎となることを痛感しました。「健康」という言葉には、「食」という観点、「運動」という観点、「自然環境」という観点など、さまざまな観点があり、人によって重要視する事柄は違ってくると思います。今回の講話をお聞きする限りでは、車社会であるこの小野市において、ウォーカブルなまちづくりの実現は容易ではないと判断せざるを得ませんが、市内各所における歩きたくなる仕掛けは大事だと思います。そして、健康に関する様々な観点から、健

康づくりを個人の問題とするのではなく、まちづくりの一環として捉え、政策展開していくこと、健康に関する選択肢を増やすことが重要であると思います。それらの視点が今回参加させていただいた研修での新たな気づきであり、今後様々な審査の過程に活かすことができればと考えています。また、上記にも記載しましたが、姫路市のこどもの未来健康支援センター「みらいえ」の取り組みについては、近隣自治体の取組みとして自身で調査研究をして参りたいと思います。